

# テスト設計コンテスト'17 OPEN クラス アピールシート

※ 全体でA4縦1ページに収まるように記述してください。

地域名

北海道

チームID

S170922001

チーム名

STUDIO IBURI

## チーム紹介

北海道「胆振(いぶり)」地区における(架空の)テスト会社(の想定)のチーム。胆振に関係のある3名で構成。テスト設計コンテストでは、「ソフトウェア要件定義書等(テスコンのテストベース)をRFPとして顧客側が業者のスキルを判断するための提案書を要求している」という状況を想定して、テスト設計を行っている。

## コンセプト

- ・方針:「①テストベースに記載されている内容を徹底的にテスト設計し、その上で②テストベース記載以外で必要と想定される内容を提案」する。特に①を重視する。テストベースに記載している狙いの実現や機能外要求の確認、気がかり事項の解決、機能網羅のテストを中心に考え、これらを強化するテストを②で提案する。
- ・3つのビュー(網羅ビュー、達成ビュー、実現ビュー)を用いて議論及び調整がやりやすい整理を行う。
- ・「テストカタマリー」というクラス図に似た記法を用いて一貫的にテスト全体～詳細を示す。
- ・顧客側のプロダクトや事業戦略にあわせて選択可能なテスト、及び追加すると価値があると判断したテストを「プラン」として提案して調整可能とすることで、ビジネスに繋がり、顧客が選択可能なテストを目指す。

## 工夫点

### ■テスト設計前段階の工夫

- ・テスト要求分析の前段階で「テストベース分析」を行うことで、対象となるテストベースを実際のテスト設計がやりやすいよう整理し、DFDや状態遷移図を用いて「参照モデル」としてまとめている。

### ■テスト上流設計の工夫

- ・「テストカタマリー」という記法の提案:テストケースの「塊」を「テストカタマリー」として表現することで全体の俯瞰をしやすく、複数人でのモデル作り、議論やレビューを実施しやすくしている。
- ・テストベースの特徴に対応した品質特性の組合せを整理し、「テスト要求パターン」として活用している。
- ・テストカタマリーを使用した「網羅ビュー」を用いて、どの対象に対して網羅を考えているか、を明確化した。
- ・「テスト達成マップ」を活用した「達成ビュー」を用いて、顧客側の上位のねらいから機能外要求や想定リスクとの繋がりを明らかにすることで、テストの必要性や顧客に役立つ追加提案事項を明確にしている。
- ・テスト実現に向けた「実現ビュー」を用いて、テストビリティと保守性向上を目的とした「テスト自動化を適用した場合の実現」方法を整理し、実現方法に対して顧客と議論を行いつつ自動化環境の構築を目指している。

### ■テスト詳細設計の工夫

- ・テスト詳細設計において、複雑な仕組みを持つ部分に対して別途想定で作成した参照モデルを作成することで、テスト詳細設計での抜けを減らすことが出来るような検討を行う。「歌う」のテストに特に注目。
- ・追加提案事項として、「シナリオ」を用いて機能の組合せを考慮した検討や、不具合の発生も見られた「センター間インタフェース」を強化するためのテストを提案している。これら2つの特殊な検討方法がポイント。